

毎日新聞大阪社会事業団ニュース

- 1.日本国際ボランティアセンター(アフリカ・スーダン、南コルドファン州での大規模紛争による避難民・難民に対する緊急プロジェクト)
- 2.幼い難民を考える会(カンボジアの子どもたちへの給食・健康支援事業)
- 3.スリランカ子供基金パウラ(スリランカの子どもたちへの奨学金支援)
- 4.マナム二母子寮関西連絡所(バン格拉デシュ・チッタゴンにあるマナム二母子寮での子ども支援)
- 5.ネパール・ヨードを支える会(ネパールでのヨード欠乏症に悩む子どもたちへの支援)
- 6.NGOアフリカ友の会(中央アフリカ共和国でのHIV感染者や子どもたちへの支援)
- 7.シエラレオネフレンズ(シエラレオネでの子どもたちの支援活動)

シンシア基金

身体障害者補助犬(盲導犬・介助犬・聴導犬)支援にかかわる団体などに対する公募助成制度です。2011年11月に紙面で一般公募し、選考委員会を開催。次の3団体に97万円を贈呈しました。

- 1.社会福祉法人日本介助犬協会(本部は東京都、訓練センターは愛知県)
- 2.宝塚補助犬支援の会(兵庫県宝塚市)
- 3.社会福祉法人日本ライトハウス盲導犬訓練所(大阪府)



第26回駅伝・ロードレース大会

「第26回大阪市児童福祉施設駅伝・ロードレース大会」(大阪市、同市児童福祉施設連盟、本団主催)が2月4日、吹田市古江台の大阪市立弘済院グラウンドと周辺で開かれ、底冷えのする中、子どもたちの元気な歓声が響きました。

毎日社会福祉顕彰



第41回毎日社会福祉顕彰(毎日新聞大阪・東京・西部社会事業団主催、厚生労働省、全国社会福祉協議会後援)の贈呈式が2011年10月3日、毎日新聞東京本社で開かれました。受賞したのは、東京の山谷地区でホスピスケア施設を運営するNPO法人「きぼうのいえ」(東京都台東区)▽障害者らの働く場としてレストランなどを運営する社会福祉法人「佛子(ぶっし)園」(石川県白山市)▽地域の高齢者の見守りを30年続ける今川社会福祉協議会ボランティア部(大阪市東住吉区)——の3団体です。賞金各100万円と賞牌が贈られました。=写真

「歳末たすけあい運動」へのご協力ありがとうございました

本団が昨年暮れに開いた2011年度チャリティー「名士寄贈書画工芸作品 入札・即売会」は、2044万3060円の売り上げがありました。歳末たすけあい運動への義援金を加えると総額で2857万761円となりました。公募福祉助成や配食サービス車の贈呈事業、被虐待児童のキャンプなど今後1年間の社会福祉事業の資金として活用します。

年末には児童福祉施設などの5団体・施設に歳末慰問金品を贈りました。皆様のご協力に深く感謝いたします。

第43回新春子ども大会

「第43回新春子ども大会」(大阪市、同市児童福祉施設連盟、本団主催)が1月29日、大阪市天王寺区生玉寺町7の天王寺区民センターで開かれました。

市が管轄する10の児童福祉施設から約400人が参加し、冬休みに練習した劇やダンス、合唱などを披露しました。=写真



「パーソナルカラー診断講習」を受ける和歌山県の講習会の参加者。



「就職祝い金」を受け取る大阪府内の児童養護施設の卒業生。

ひとり立ちは、甘くありません。施設を出て1人暮らしを始めると、たちまちピンチが来ます。その際、社会生活や経済の知識を持っていると助かります。施設で生活しているうちに、金銭貸借、薬育、食生活、ビジネスマナーなどのプログラムを受講してもらい、自立を助けようというのが、ソーシャル・スキル・トレーニング(自立生活技術講習会)です。

大阪では社会福祉法人「大阪児童福祉事業協会アフターケア事業部」が先駆的に取り組み、商業高の教諭、職業カウンセラー、保健師らがバックアップ。本団は、就職する府内の児童養護施設の中高校生(11年度96人)に激励金を贈っています。

和歌山では今年、初めての本団助成事業(県児童養護施設協議会主催)がスタート。北は和歌山市から南は新宮市まで11人の生徒が、ホテルでのテーブルマナーや身だしなみなど11講座を受講しました。東海3県の施設や里親家庭で暮らす高校生対象の「社会的養護の当事者推進団体なごやかサポートみらい」(名古屋市の講習会(年6回)、全国自立援助ホーム協議会(名古屋市の)のハンドブック作成にも初めて助成しました。

若者がチャンスを生かし、社会の構造を固定化させないための取り組みです。

生徒からの礼状

- ◇「ぼくは中学校を卒業して働くことになりました。早くお金を稼げるよう就職することにしました。これからは心配ですが、しっかり稼げるようになって施設に寄付できるようにがんばります。みなさま、応援いただきありがとうございました」(大阪府・中学生)
- ◇「先日は私たちのためにソーシャル・スキル・トレーニングにご助成頂きありがとうございました。社会に出たらいろいろなことがあると思いますが、今回勉強したことを頭に置きながら、一步一步前進し、迷った時には大人の人と相談しながら頑張っていきたいと思います」(和歌山市・高校生)

寄付を受け付けています

本団の郵便振替は(00970・9・12891)です。現金書留や直接持参でも受け付けいたします。

住所は〒530-8251大阪市北区梅田3-4-5。電話06-6346-1180、ファクス06-6346-8681。平日、10時～18時まで受付(土、日、祝日は休みです)

- *「社会福祉に」「希望奨学金」など寄付項目を必ずお書きください。
- *金額とお名前を毎日新聞の地域面に掲載します。匿名希望の場合は通信欄などにお書きください。
- *ご寄付は特定公益増進法人として税法上の優遇措置があります。

編集後記

45

◆「そよかぜ45号」から用紙と文字を少し大きくしました。「小さな文字は読みにくい」と要望があったのがきっかけです。「そよかぜ」発刊は1991年で、創刊の言葉にも「一方通行でなく、コミュニケーションの場に」とあります。

◆3月、大阪市の城東小の児童が「震災遺児のための希望奨学金に」と募金を持参。毎日新聞に掲載された「配給の列に並ぶ男の子の笑顔」を見

て、募金をしてくれたのでした。男の子の1年後の笑顔も掲載され、児童からは「元気で暮らしてくれて良かった」との感想が。

◆東日本大震災の大津波から1年が経ちましたが、被災地にはまだ平穏な日常生活は戻っていません。農作物や魚介類への影響は続き、自宅に帰れない人がたくさんいます。継続的な報道と、本団など民間の力を集めた支援の継続が必要です。(太)

自立へ アフターケア事業支援
大阪、和歌山、名古屋にも
自立の季節です。親と離れて施設で暮らす生徒らが、元気な社会人になれるよう、毎日新聞大阪社会事業団は100周年記念のアフターケア事業支援を始めました。舞台は今年、大阪から和歌山、名古屋へと広がりました。

東日本大震災 救援金4億3600万円贈る 奨学生追加募集

死者・行方不明者1万9000人以上を出した東日本大震災(2011年3月11日)から1年。ガレキの処理は進まず、雇用、住宅再建など被災地域は大きな課題を抱えています。

本団はこの1年間、東日本大震災救援金4億3627万円を日赤や東北3県を通じて被災地に贈り、高校、大学、専門学校生など156人を対象に毎日希望

奨学金(1人月額2万円、計3744万円)を給付しました。2012年度も救援金と奨学金の募集を継続します。

また被災した子どもたちに本を贈る運動は339カ所に1万9039冊を贈り、3月末で終了しました。北海道から沖縄、海外の中国・上海まで多くの方々のご協力に感謝します。

東日本大震災救援金

大阪社会事業団贈呈分一覧

贈呈日	金額	贈呈先
第1回、3月24日	5000万円	日本赤十字社
第2回、4月18日	4627万円	(岩手・宮城・福島県各1000万円) 日本赤十字社1627万円)
第3回、5月10日	2億円	日本赤十字社
第4回、7月10日	1億円	日本赤十字社
第5回、9月28日	2800万円	日本赤十字社
2012年 第6回、3月23日	1200万円	日本赤十字社

寄託総額合計、4億3627万円

東日本大震災で被災した子どもたちに本を贈る「いっしょだよ」キャンペーン

2011年4月26日から被災した子どもたちに本を贈る『いっしょだよ』キャンペーン(略称:「児童図書を贈る運動」)を実施しました。



イラスト協力:絵本作家 いわむらかずおさん

2012年3月末までに1525件、2455万5999円が大阪社会事業団に寄せられました。作家や出版社から寄贈された870冊を含む計1万9039冊を4都県339カ所の保育園、幼稚園、小中学校などに贈呈しました。

主催:大阪国際児童文学館、大阪府書店商業組合、毎日新聞社、毎日新聞大阪・東京・西部社会事業団

贈呈報告

寄贈施設内訳

339件	岩手県	28件
	宮城県	135件
	福島県	175件
	東京都	1件(JBBY「あしたの本プロジェクト」)

施設種類:保育園(所)・幼稚園・児童館・小学校・中学校・仮設の集会所・公民館・子育て支援センター・学童保育所・ベビーホームなど

贈呈日

発送日	施設数	冊数
第1回、9月13日	16	872
第2回、10月5日	60	3400
第3回、11月24日	55	4385
第4回、1月25日	186	8865
2012年 第5回、2月10日	19	928
特別配布 3月	3	589(岩手・宮城・福島の県立図書館)
合計	339	19039

東日本大震災遺児奨学金制度「毎日希望奨学金」

震災から2ヵ月目の2011年5月4日、保護者を亡くした震災遺児を支える「毎日希望奨学金」制度を毎日新聞大阪・東京・西部社会事業団、毎日新聞社で創設。奨学金基金への募金を毎日新聞紙面などで呼びかけました。翌年3月末までに7595件3億3,933万8,275円(東京・西部分の425件1,941万8,560円を含む)が大阪社会事業団に寄せられました。

保護者(父または母ら)が死亡・行方不明になり、学業継続が困難になっている高校生、高等専門学校生、短大、大学生、専修学校生、50人を対象に月額2万円を正規の最短卒業年度まで給付(返還の必要はなし)することを決めました。毎日希望奨学金給付規定や選考委員会規定、運営委員会規定、選考委員の選出、事業計画が承認されました。

7月1日付毎日新聞朝刊で社告を掲載するとともに被災地の高校や大学などに直接照会をかけました。50人の応募枠に対して159人が応募。9月6日に奨学生選考委員会が開かれ、全員一致で159人への支給を決定(他の奨学金制度で併給受給に支障が出るため、辞退者が3人。最終的には156人に)。2011年10月に2,808万円(4月~12月の9ヵ月分)、2012年1月に936万円(1~3月分)の合計3,744万円の奨学金を給付しました。初年度の156人のうち高校生は130人です。

3月1日に毎日希望奨学金運営委員会が開かれ、新たに新1年生を中心に50人程度の新規募集をすることなどが承認されました。

毎日希望奨学金

2011年度毎日希望奨学金 高校生各県別一覧表 (48校130人)

- 岩手県 14高校51人
陸前高田市1校14人 大船渡市2校17人 釜石市1校5人 盛岡市4校4人 宮古市2校4人 住田町1校3人 山田町1校2人 一関市1校1人 北上市1校1人
- 宮城県 25校67人
石巻市7校28人 気仙沼市5校19人 仙台市6校11人 登米市1校3人 栗原市1校1人 名取市1校1人 利府町1校1人 南三陸町1校1人 美里町

- 1校1人 多賀城市1校1人
- 福島県 6校9人
南相馬市1校3人 相馬市1校2人 福島市1校1人 郡山市1校1人 新地町1校1人 いわき市1校1人
- 茨城県 2校2人
常総市1校1人 筑西市1校1人
- 新潟県 1校1人
上越市1校1人

寄付者の願い

救援金や奨学金、「いっしょだよ」キャンペーンに多くの方々のご協力をいただきました。寄付者の添え書きの一部を紹介します。

◇本日、別添銀行の送金票(コピー)のように震災遺児奨学金向けに1000万円を送金申し上げました。紙面で当方の名をご紹介いただく件はそちらのご都合でよろしく取り計らってください。貴「奨学金プロジェクト」でより多くの有望な青年が育成されるよう心から祈念申し上げます。(5月の募集社告直後に事業計画、事務局の構成等を聞いた神奈川県の80歳代の男性)

◇3月11日から早くも6ヵ月経ちました。全国の方々様から温かい義援金を頂きたいへん助かりました。7月中旬ごろ仮設に入り、落ち着きました。少しでもお返しが出来たらと思います。子どもたちが、すこやかに学べる道を作ってくださいませ。(岩手県の仮設住宅に暮らす女性から。希望奨学金への寄付)

台風12号の被災者救援金 3県に1115万円を寄託

毎日新聞大阪・東京・西部社会事業団、毎日新聞社は、紀伊半島などに被害を出した台風12号被災者救援金を2011年9月8日から募集しました。10月末に和歌山、奈良県に各400万円、三重県に90万円を寄託。12月と3月に合わせて和歌山県へ225万円を寄託しました。贈呈額は736件、1115万円になりました。ご協力ありがとうございました。

アジア・太平洋 わたぼうし音楽祭

障害のある人がつづった詩を曲に乗せて歌う「第11回アジア・太平洋わたぼうし音楽祭」(本団後援)が2月29日、タイ・バンコク市の国立劇場で開かれました。韓国・水原、中国・上海、ベトナム・ホーチミンなど12の国と地域の代表が参加しました。



第11回は、昨年11月に開催予定でしたが、タイの洪水被害で2月に延期されました。

日本からは10年に国内の「わたぼうし音楽祭」で大賞を受賞した全盲の久保博揮さん(名古屋市、36歳)が作詩・作曲した「半分ごっこ」が紹介されました。

舞台では「誰もが 完璧には生きられない 半分ずつ分け合って 支え合う あなたがくれた あたたかい気持ち わたしも あなたに優しくなれたら…」と久保さんの奏でるピアノ演奏に友人の原田奈生子さん(山口県周南市、41歳)の透き通った歌声、難聴の久保田洋輔さん(山口県周南市、30歳)が力強い手話ボカールを披露、900人の観客を魅了しました。

フィナーレでは14年の開催地、オーストラリア・ケアンズ代表に「わたぼうし」のレプリカが手渡され、出演者全員でテーマソング「わたぼうし」が歌われました。



「半分ごっこ」を演奏する久保博揮さん(中央)、歌う原田奈生子さん(左)、手話ボカールをやる久保田洋輔さん(右)

100周年記念フォーラム「支え合い1世紀」開く

大阪社会事業団創立100周年記念フォーラム「支え合い1世紀」が2011年9月17日、大阪市北区梅田の毎日新聞ビル地下のオーバルホールで開かれ、関西一円から約300人が集まりました。

東日本大震災に続き、台風12号が紀伊半島を襲った災害の年。創設者の本山彦一・大阪毎日新聞第5代社長以来の事業団の原点を見つめ直そうと企画しました。

初期の病院船での巡回診療に始まる歴史を「映像でたどる百年」(毎日映画社制作)として紹介しました。伊藤芳明理事長は「人と社会に向ける温かい眼差しが毎日新聞と社会事業団に脈々と受け継がれ、皆さんの広範なご支援につながっている」とあいさつをしました。

2011年度の新聞協会賞を受賞した手塚耕一郎・東京本社写真部記者の取材

報告は、会場で「プロ根性と人間味を感じる取材」と受け止められました。

ゲストのヨハン・セルス国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)駐日代表は「1世紀にわたる努力と献身に敬意を表したい」と述べられました。



国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)のヨハン・セルス駐日代表は「難民・世界規模の課題と日本の役割」と題して講演=小川昌宏撮影



大毎慈善団(現在の大阪社会事業団)創設者で大阪毎日新聞社第5代社長の本山彦一が慈善団に贈った書「慈悲平等」。

「公募福祉助成制度」9団体に総額360万円を贈呈

国内で福祉活動に取り組む団体や先駆的の事業でありながら、どこも援助先がない団体への一般公募の助成制度です。今回は児童福祉施設のアフターケア事業に取り組む団体に助成する「100周年記念事業特別枠」を設け2011年11月に紙面で告知。2012年1月26日に選考委員会を開き、次の9団体に総額360万円を贈呈しました。

〈公募福祉助成金〉

- 全国視覚障害者情報提供施設協会島根あさひ事業所(島根県)
- 神戸真生塾子ども家庭支援センターロータリー子どもの家(神戸市)
- たんぼぼの家(奈良市)
- 関西骨髄バンク推進協会(大阪市)
- ひだまり(鳥取市)

〈100周年記念事業特別枠〉

- 大阪児童福祉事業協会アフターケア事業部(大阪市)
- 和歌山県児童養護施設協議会(和歌山県)
- 社会的養護の当事者推進団体なごやかサポートみらい(名古屋市)
- 全国自立援助ホーム協議会(名古屋市)

小児がん征圧募金 6団体へ贈呈

毎日新聞の「生きる」キャンペーンに寄せられた「小児がん征圧募金」の贈呈式が3月8日、大阪市北区の本団事務所で行われました。=写真

大阪社会事業団からは今回、京大病院小児科ボランティアグループ「ここにトマト」(京都市左京区)▽京都ファミリーハウス(京都市中京区)▽日本クリクラウン協会(大阪市港区)▽近畿小児がん研究会(大阪府吹田市)▽チャイルド・ケモ・ハウス(大阪府茨木市)▽あいち骨髄バンクを支援する会(名古屋市東区)の6団体に各30万円が贈られました。



「世界子ども救援金」

2011年度の「世界子ども救援金」は、これまでの取材地への「継続支援助成分」と「公募助成」の2つの助成を行いました。2011年は海外派遣を見合わせましたが、過年度の基金をもとに可能な限り助成をしました。年度末の2012年3月にアフガニスタン難民取材のため社会部・堀江拓哉記者と写真部・小川昌宏記者をパキスタンに派遣しました。

◎「世界子ども救援金」継続支援助成

次の3団体に総額150万円を贈呈しました。

- 1.マイシャ・ヤ・ラハ基金(ケニア・ナイロビのキベラスラムで活動する早川千晶さんが運営にかかわっている「マコゾスクール」の支援母体)
- 2.国連UNHCR協会(国連難民高等弁務官事務所・UNHCRソマリア難民支援)
- 3.石田勝子を励ます会(コンゴ民主共和国ニャンクンデ福音医療センターで活動する石田勝子さん支援)

◎「世界子ども救援金」公募助成制度

2011年11月に紙面で一般公募、選考委員会を開催。次の7団体に総額250万円を贈呈しました。